

平成16年度全国都市再生モデル調査

海にひらこう岩手の国際化プラン

(国際港湾都市と地域背後圏の連携計画)



大船渡市商工観光部港湾振興推進室

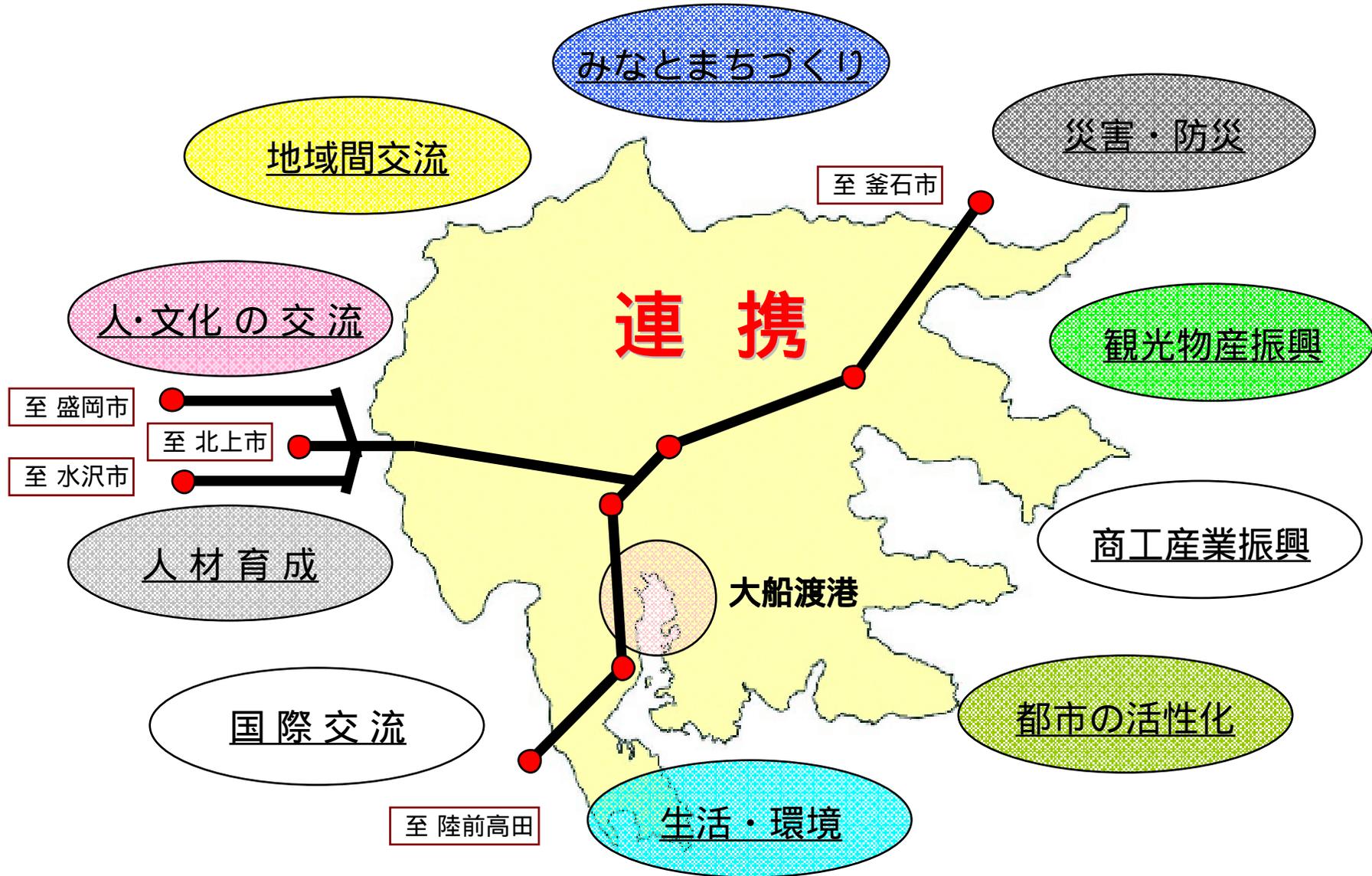
海にひらこう岩手の国際化プラン

大船渡市は、海・みなとから発展してきた町。みなと周辺の様々な資源を活用する方法を、市民の意見等を聞きながら「地域が自ら考え行動する」ことを基本に、「みなとまちづくり」と地域間連携を推進するものです。

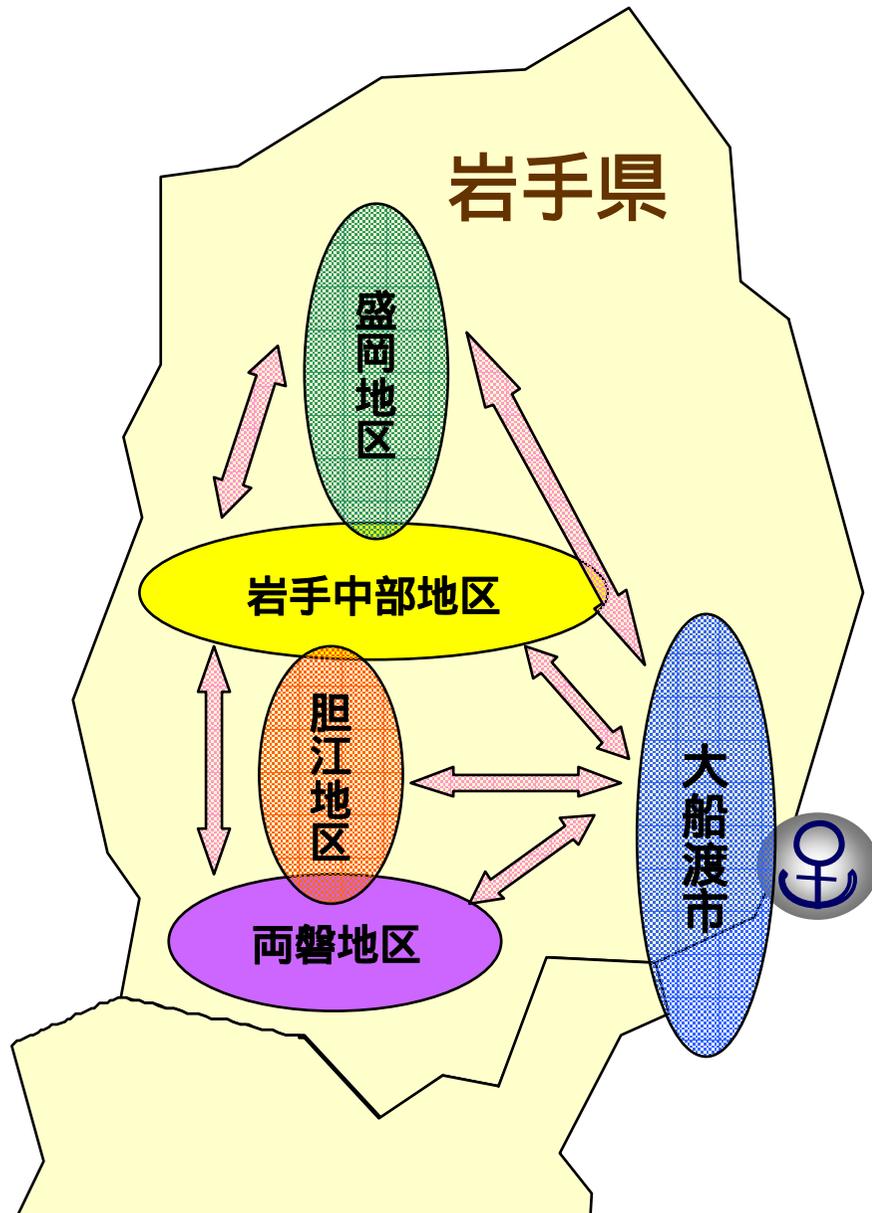
岩手県内陸地方の各市町村と連携し、港湾を中心とした国際交流をテーマに情報交換、交流会を開催し、各地域の市民とともに文化・生活・産業・観光等の相互理解を深めるとともに、国際的な「まちと人づくり」を進める。



海・みなとを核とした視点からの取り組みを検討する



活動内容



1. 各地域の有識者を構成員とする委員会等の設立。
2. 各地域に在住する外国人の体験談等を聞きながら未来を担う子供を育成する。
3. 地域文化・観光・商業の視点から相互理解を深め地域経済の発展を図る。
4. 地域情報を集約するため各地域に情報発信・収集できるサテライトの設置。
5. 港湾と市民の憩いの場の創出。

実施結果

活動内容	実施結果
1. 各地域の有識者を構成員とする委員会等の設立。	海にひらこう岩手の国際化委員会発足 各内陸市町村の有識者と各地域の現状と将来像等の意見交換、今後の連携・交流手法の検討
2. 各地域に在住する外国人の体験談等を聞きながら未来を担う子供を育成する。	こども記者による「国際港湾都市」大船渡(港)の取材と国際交流
3. 地域文化・観光・商業の視点から相互理解を深め地域経済の発展を図る。	各種市民団体等による意見交換会、シンポジウム、フォーラム等の開催
4. 地域情報を集約するため各地域に情報発信・収集できるサテライトの設置。	海にひらこう岩手の国際化委員会の協力を得て、物産等広報用ポスター、チラシの配置
5. 港湾と市民の憩いの場の創出。	各種市民団体との意見交換・ワークショップの開催により意見・提言等の集約

海にひらこう岩手の国際化委員会



各種市民団体等との意見交換会



これまでに意見交換会等
を38回実施しました。

こども記者による「国際港湾都市」大船渡港の取材と国際交流



大船渡市が計画している国際港湾都市を各地域の子供たちに紹介するとともに、岩手県に在住する外国人の体験談等を聞きながら未来を担う子供を育成する。

学校新聞部の港湾取材



国際交流

- 1 出会う
- 2 見つける
- 3 調べる
- 4 表現する
- 5 活かす

岩手県在住の 外国人の体験談



学校新聞の発行



学ぶ

自ら課題を見つけ主体的・創造的に学ぶ子どもを育てる

学校新聞の発行



大船渡・みなとまちづくりシンポジウムの開催



各地域の先進的な「まちづくり」の照会があり、110名の方々が聴講されました。

みなとまちづくりワークショップの開催

テーマ
見直そう、みなとの宝



みなとまちづくりワークショップでの検討



知恵・情熱・力を結集



アンケート調査の実施

活力のある大船渡の“まち”をつくって行く上で、

≡ 港湾を核とした周辺のさまざまな資源の活用

- ・ 他の地域との連携と相互理解
 - ・ まちづくりと人づくりの推進、その他
- について広くアンケートを実施しました。

アンケート対象と部数

- ・ 大船渡市民あて1,000人(18歳以上無作為)
- ・ 岩手県内の小中学校10校あて各100部

アンケート結果

- ・ 集約して結果を分析し、今後の活動に反映。

まとめ

1. 都市再生モデル調査実施による「みなとまちづくり」の感想

- 各市民団体の積極的な活動を再認識。
- 課題は多いが取組むべき目標は各団体とも一致している。
- 都市再生モデル調査を機会に新たな「みなとまちづくり」の取組みを行う原動力が芽生えた。

2. 意見交換・提言の感想

- みなとまちづくりの活動を継続して、地域振興に貢献するための意見が多い。
- 市と市民や市民団体等が協力し合って協働することが重要であることが理解されている。
- 各活動を通じて、市や市民団体の役割が認識され、役割分担に沿った取組が必要、できるところから楽しくやろう。

「ポートオブサイヤ-2004」グランプリ受賞 2005年の日本モデル地区認定
大船渡みなとまちづくりシンポジウム
主催 大船渡みなとまちづくり推進協議会

大船渡 みなとまちづくり 推進協議会 発足



モデル調査実施以降、
多彩な「みなとまちづくり」
活動を展開しています

